

義援金総額 5659万876円

使途報告 (平成24年5月末現在)

支援物資	9,261,024円
そうじゃ・宮城っ子基金	39,380,974円
日本赤十字社へ	2,451,000円
合計	51,092,998円
残額	5,497,878円

残額は今後、被災地のニーズを把握しながら、長期的な支援活動に使う予定です。

宮城県内の震災孤児に対し、一人年間10万円を5年続けて支給する「そうじゃ・宮城っ子基金」。この基金の支援を受けている山下裕士さん（仙台市）からお礼の手紙が届きました。

山下さんは、津波で二女の優さんを亡くし、優さんの3人の娘を育てています。手紙からは、孫への熱い思いがあらわれています。市は、震災孤児や育ての親となっている人たちの励

みとなり、夢をもって前に進んでいくことができるよう、長期的な支援を行っていきたいと思います。
7月15日には、奥山恵美子仙台市長が基金のお礼にと、総社市を訪問されます。

「そうじゃ・宮城っ子基金」へのお礼の手紙

拝啓

ようやく暖かい日も増えてまいりましたが皆様には、お変わりなくお過ごしでございますでしょうか。

悪夢の大震災より、早一年が過ぎ私にとっては長い長い一年でした。

残念ながら二女は、亡くなりましたが、3人の孫娘は、関係者の的確な避難誘導もあり助かり、孫たちを救い、励ましてくれた方々がたくさんいたと思いますが、お礼のすべもありません。

孫たちも、ずいぶんと今の生活に慣れ、元気に明るく、にぎやかに過ごし、私の方が励まされているのが現状です。まだまだ、始まったばかりの孫育てですが今まで培った経験を生かし、焦らず、長い気持ちを持って育てていきたいと思っています。

孫たちを引き取って早一年が過ぎましたが三人の成長は目を見張るものがあります。

私の仕事も忙しく、建設業全般に言えることですが、人材不足と人員不足で非常に多忙な環境にあり、孫たちともなかなか話をする時間も少なくなっているのが現状です。家庭を顧みず仕事をしていた時期もあったので、優が子どもたちを私に託したという思いも強く、今は、この業界から身を引き、孫育てにシフトしようかと考えています。

お陰様で、3月30日に、一周忌ならびに納骨も執り行うことができ、これも、皆様よりのご支援ならびに、ご援助のおかげと感謝申し上げます。

敬具



東日本大震災復興支援のために
『でまねんぐ』を続けよう

総社の雇用と経済を守る

三菱自動車本社を訪ね、今後の生産体制について要望を行いました。



市内の総合部品メーカー12社で構成される協同組合ウイングバレイ。市の製造品出荷額の約50%を自動車など輸送用機械器具製造業が占め、約4000人が従事している



三菱自動車本社（東京都）で、益子修代表取締役社長に要望する市長

◆水島製作所の減産の影響

三菱自動車の主力工場である水島製作所（倉敷市）では、記録的な円高による減産が続き、その影響もあり、傘下の部品工場でも夜勤の中止、生産調整などが行われています。市には、協同組合ウイングバレイに加入している企業をはじめ、三菱自動車の関連企業が多く操業しているため、同自動車の今後の動向は、市にとって死活問題ともいえます。

◆三菱自動車本社へ

市の雇用や経済に与える大きな影響が懸念されるため、市長は5月30日、三菱自動車工業株式会社の益子修代表取締役社長を訪問し、水島製作所の今後のあり方などについてお願いをしました。

その内容は、「いつまでも水島で生産し、生産台数や部品調達、人員を増やしてほしい」と。また、「部

品の調達は地元企業を使っ
てほしい」というものでした。

それに対し益子代表取締役社長は、「水島製作所は、三菱自動車にとって重要な拠点であるので撤退しない。耐震工事などに約100億円の投資を行い、世界の拠点となる工場とする。生産は来年度以降から増産し、軽自動車だけでなく、乗用車のギャランフォルテイスの次期モデルも一部生産する計画。部品は一部工場内で生産する予定だが、部品供給企業と双方の利益を高めていきたい」と今後の方針を示しました。

◆将来を見据える

会談後、市長は「よい返事がただけてほっとしている。示された数字以上に、益子社長の総社や水島に対する温かい思いやりや愛を感じることができてうれしく思う」と話しました。
市は今後も雇用や経済に大きく関わる三菱自動車の動向を注視していきます。